

トリニダード・トバゴ（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在トリニダード・トバゴ日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	1	2	73	1	3	76	1	5	149

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

トリニダード・トバゴの日本語教育は、1993年に国立語学学校（NIHERST SCHOOL OF LANGUAGES、当地高等教育を担当する国の機関）で始められた。講座は一般成人のみを対象とし1998年まで続けられたが、学習者数の減少、講師の都合などの諸事情により廃止され、その後、1999年9月に西インド諸島大学（the University of the West Indies : UWI）セント・オーガスティン校言語学習センター（Centre for Language Learning : CLL）で、社会人を対象とした日本語講座が開講した。

2013年に西インド諸島大学において日本語が単位取得可能な科目として正式に認定され、また、2015年に同大学が国際交流基金のさくらネットワークに加盟してからは、2018年の日本語能力試験の実施や日本語スピーチコンテストの開催など、日本語教育普及に係る取り組みが強化されている。2019年8月に同センターが、2025

年 11 月に同センター常勤講師である荒川志保氏が長きに亘る日本語教育の貢献が認められ、外務大臣表彰を受賞した。

コロナ禍後の 2022 年 9 月、同大学では CEFR A1 レベルの第二言語習得が卒業必要条件となったため、スペイン語・フランス語・中国語とともに日本語も必要単位（3 単位）を取得できる講座が新しく開設された。

また、2020 年 3 月から 2022 年 7 月までオンラインで授業を行ってきたが、2022 年 9 月に大学が対面授業を再開した後もオンライン授業を希望する学習者が多かったため、2024 年 3 月現在も、対面コースと並行してオンラインコースが開講されている。

2025 年 11 月現在、同センターでは社会人向けには入門・初級・初中級の 3 レベルが、大学生向けには第二言語選択科目として初級レベルが設けられており、1999 年 9 月 CLL の開講から 2025 年 5 月まで延べ 3,304 人が日本語を学習し、アニメ、まんが、J-POP への関心や、JET プログラムへの参加希望者の増加などを反映して、日本語学習者数は増加傾向にある。

2020 年度 162 人

2021 年度 115 人

2022 年度 194 人

2023 年度 231 人

2024 年度 337 人

西インド諸島大学以外では、民間の語学学校が 2019 年まで日本語講座を開講していたが、現在は日本の語学学校と提携し、オンライン講座を提供している（JSM Language Innovation Centre）。

背景

日本とは地理的要因もあり、両国間の人物交流・往来は限定的であるが、当地の日本文化関連団体等による文化交流事業、JET プログラム（The Japan Exchange Teaching Programme）、国費外国人留学生制度などの事業が実施され、日本のイメージは良好で日本への憧れを持つ者は多い。また、国内では日本車が多く使用されており、日本からの中古車や中古部品の輸入も活発なことから、日本に親近感を持っている者は少なくない。西インド諸島大学（UWI）セント・オーガスティン校は外国語教育を非常に重視しており、2022 年 9 月より外国語習得を卒業要件とした。日本語講座は、スペイン語・フランス語・中国語と並び選択科目として採用されている。

特徴

同センターにおける学習者は大学生及び 20 代から 30 代の社会人が中心で、学習者規模は年間延べ 200 人ほどである。国内には独学で日本語を勉強している学習者もいるが、さほど多くはない。学習の動機としては、日本語そのものに対する興味のほか文化的興味が多く挙げられる。日本のアニメや漫画を始めとするポップ・カルチャーに対する興味から日本語を学び始める学生が最も多いが、柔道・剣道・空手などの武道を習っていることがきっかけで日本語に興味を持つ学習者もいる。JET プログラムへの参加、日本への旅行、留学、就職などを希望する学習者も増えている。

最新動向

特記事項なし。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

1999年9月から、西インド諸島大学人文教育学部言語学習センターにおいて日本語講座が開設されており、2025年11月現在、第二外国語の選択科目としての授業と社会人向けの授業が行われている。

学校教育以外

オンラインで日本語講座を開講している語学学校（JSM Language Innovation Centre）がポートオブスペインに1校ある。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

トリニダード・トバゴは元英国領であり、教育制度は英国の制度に基づいている。教育段階別の対象年齢は、原則、幼稚園が3～5歳、小学校（7年制）が5～11歳、中・高等学校（7年制、5年制及び2年制）が11～18歳、及び大学（18歳～）となっている。

1966年制定の教育法により、義務教育は6～15歳までが対象となっている。

教育行政

教育省が初等・中等教育を、高等教育・技能訓練省が高等教育を管轄している。高等教育機関としては、西インド諸島大学、トリニダード・トバゴ大学（UTT）などの総合大学がある。職業教育はTertiary Level Institutionsを通じて行われている。

言語事情

公用語、主要言語とも英語であるが、日常的には地元の方言（トリニダード・トバゴクレオール語）が使用されている。英語以外の言語としては、パトア語が一部の地域で話されているほか、ベネズエラを中心とするスペイン語圏からの移民によりスペイン語が、中国人コミュニティ内で中国語が話されている。また、スペイン語話者の増加の影響で、交通標識にスペイン語が併記されている。

外国語教育

2005年、当時の政府によってスペイン語が第一外国語に指定され、その後、現政府によって中等教育における履修科目に組み込まれた。これはスペイン語を国語としている国々、特にベネズエラが地理的に非常に近いこ

と、また、英国領になる前からスペイン人が当地を訪れていた歴史的な理由に基づいている。

その他、フランス語、ヒンディー語（国民の約35%はインド系のため）などの言語教育が行われている。西インド諸島大学言語学習センターでは、ポルトガル語、ドイツ語、中国語、 Yorlba 語、韓国語（2025年11月現在休講中）などのコースも設けられている。

外国語の中での日本語の人気

上記外国語教育環境などの関係もあり、スペイン語、フランス語が多く学ばれているが、西インド諸島大学言語学習センターにおける年間日本語講座受講者数が、2000年の20人弱から2013年には100人を超え、2023年には190名を超えたことから、日本語の人気が確実に高まってきていることが分かる。現在、同センターの日本語学習者数は、スペイン語、フランス語について三番目に多い。中国語、韓国語とともに東アジア圏の言語の受講を希望する学習者が増加している。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

『まるごと 日本のことばと文化』国際交流基金（株式会社三修社）が使われている。

IT・視聴覚機材

西インド諸島大学言語学習センター内に、インターネットが使用できるランゲージ・ラボラトリー、オーディオ、ビデオなどの設備が設置されている。また2000年には文化無償資金協力により、当地の国立高等教育院に対して語学学習のための機材が供与されている。

5. 教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

西インド諸島大学言語学習センターの外国語教師（日本語教師を含む）は、大学卒業の資格及び外国語教育理論の知識と経験が必要条件となっている。

学校教育以外

特別な資格要件なし。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムは確認されていない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

西インド諸島大学言語学習センターでは、2025年11月現在2名の日本人教師が常勤、非常勤教師としてそれぞれ雇用されており、大学の第二言語選択科目（初級レベル）及び言語学習センターの社会人向け講座（入門レベルから初中級レベル）を担当している。

教師研修

国内では日本語教師対象の研修は確認されていない。言語学習センター内での語学教師研修、大学の教育・学習支援センターが提供する講座の受講、JF日本語専門家による研修、中米カリブ日本語教師ネットワーク主催・JF助成の「中米カリブ日本語教育セミナー」などに参加し、日本語教師としての能力・知識向上に努めている。

現職教師研修プログラム（一覧）

特になし。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

国内では日本語教育関係のネットワークは確認されていないが、西インド諸島大学言語学習センターは、2017年に中米カリブ日本語教育ネットワークに加盟した。これは、中米・カリブ地域における日本語能力と日本語教育能力の向上及び同地域における日本語教師間の交流の場として活動しているネットワークで、月一回の代表者会議への出席、ネットワーク主催の日本語コンテスト開催への協力、日本語教育セミナーへの参加、準備協力などを通して、中米・カリブ地域の日本語教師との交流を図っている。

最新動向

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

その他からの派遣

（情報なし）

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9.評価・試験

評価・試験の種類

日本語能力試験が年1回7月に西インド諸島大学言語学習センターにおいて実施されている。

10.日本語教育略史

1993 年	国立語学学校（NIHERST SCHOOL OF LANGUAGE）にて一般成人対象の日本語教育開始（～1998 年）
1999 年 9 月	西インド諸島大学（the University of the West Indies）にて日本語講座開設
2013 年 9 月	西インド諸島大学が日本語講座を正規の単位科目として認定
2018 年 7 月	日本語能力試験実施開始
2022 年 9 月	西インド諸島大学で、日本語が第二言語選択科目となり、それに伴い新講座が開設

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。

なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp

(メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください)